

書籍案内

* 『風雪に耐えた「中国の日本人公墓」－ハルビン市方正県物語－』

方正友好交流の会 編著

日本人公墓建立までの経緯などを王鳳山と奥村正雄が、中国養父母公墓を自力で建立した遠藤勇さんの半生を大副敬二郎が、方正県住民の家に住み込み、全力で稲作指導に邁進し「日中友好水稻王」といわれた藤原長作さんの一生と、敗戦後八路軍に入り帰国後、日中友好運動や麻山事件の犠牲者の公墓建立で活躍された金丸千尋さんの半生を大類善啓が執筆。また「方正友好交流の会」を成立以前から支えた人々の座談会を牧野史敬が司会進行した記録などが収録されている。
(定価 1500 円、事務局に残部あり)

* 『風雪に耐えて咲く寒梅のように 二つの祖国の狭間に生きて』

可児 力一郎 著

著者は、旧満州へ入植してから 17 年ほどの中国での残留生活を経て帰国するまでの記憶を綴ろうと、慣れない日本語と苦闘しながら、2003 年本書を書き上げた。著者宛てに直接申し込んでいただきたい。〒399-5303 長野県木曾郡木曾町田立 1 2 2 3 可児力一郎
(かに・りきいちょう：定価 1700 円。電話 0573-75-4755 FAX 0573-75-4557)

* 『中国残留日本人という経験 「満洲」と日本を問い続けて』 蘭 信三 編

本書は、中国残留日本人の多彩な経験を通して、現代の日本を問い、「満洲」とは何だったのかを総括する。いわば中国残留日本人研究の総決算ともいえる 600 頁を超える大部の書だ。会員の南誠さんが『想像される「残留日本人」－国民をめぐる包摂と排除』を、同じく猪股祐介さんが『満洲農業移民から中国残留日本人へ』というタイトルで論文を書いている。
(勉誠出版(株) 電話 03-5215-9021 定価 8000 円、税別)

* 『記憶にであう－中国荒土高原 紅棗がみのる村から－』

大野 のり子 著

著者は 6 年前から山西省呂梁市臨県招賢鎮賀家湾村という、郵便物も届かないときがある僻地に住み続け、日本が侵略時、「三光作戦」などで残虐をほしいままにした、その被害を受けた老いた村人たちの聞き取り調査を続けている。この本は私たちも読んで理解できるような記述になっているが、最近、『黄土来了日本人』(中文)という本を東京大学東洋文化研究所から出した。ただ、国内外の主として大学図書館などに寄贈されたもので、街の書店では買えない。
(定価：1575 円 <http://www.Amazon.co.jp>)

《報告》

ありがとうございました

前号の会報 11 号発行後 (2010 年 12 月 20 以降) カンパをお寄せいただいた方、また新たに会員になられた方々のお名前を以下に記して感謝の意をお伝えします。ありがとうございます